

かほくがた

河北潟湖沼研究所通信 Vol.8 No.4

河北潟と干拓地の将来を考えるシンポジウムを開催

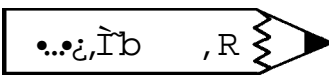


パネルやプロジェクターを使用して活発な話し合いがおこなわれた。

河北潟と干拓地の将来を考えるシンポジウムが2月22日に内灘町民ホールで開催されました。住民や干拓地農家、地方自治体の職員、研究者ら約80人の参加者が、それぞれ3つの分科会に分かれて、河北潟地域の将来についてのアイデアを出し合い、展望を語り合いました。第1分科会では、潟の水質の問題を中心に話し合いがおこなわれました。シミュレーションによる河北潟の水質予測の手法について紹介された後、水門の開放や潟の再汽水化についての議論が活発におこなわれました。第2分科会では、干拓地の農業の現

状と未来について、実際に干拓地で生産をおこなっている農家の方々も交えて、率直な意見交換がおこなわれました。第3分科会では、河北潟の地域づくりに市民がどのように関わっていくのかということについて、自由な意見を述べあいました。女性の参加者が約4割、最高齢の方から学生までの幅広い参加者で、多彩な意見が出されました。

お昼を挟んで、河北潟湖沼研究所弦楽合奏団Eoc Amiによるミニコンサートのあと、まとめの討論会がおこなわれました。（詳細の一部は3面に）



富栄養化の問題



湖沼の環境を問題にするときに、富栄養化という言葉がよく使われます。富栄養化とはもともと、湖沼が長い間の遷移によって徐々に窒素やリンなどの栄養をため込んで、水質や生息する生物相が少しずつ変化するという現象を示す用語でした。しかし、近年では人為的な影響による湖沼の急速な富栄養化が世界的に進行したため、湖沼の環境問題の重要なキーワードとなりました。



現代の富栄養化の特徴としては、まず藻類の異常増殖ということが挙げられます。有毒な藻類である赤潮やアオコが大量に発生し、異臭などの水質障害を起こしたり、酸素濃度の急激な低下による魚介類の死滅をもたらしたりすることもあります。また、増殖した水草の枯死・腐敗による環境悪化をもたらすことも特徴です。



富栄養化をもたらす物質は栄養塩類と呼ばれますが、とくに窒素とリンを含む化合物が重要です。窒素もリンも藻類や高等植物が成長する上で不可欠の物質ですが、他の必須の物質である炭素や、水素、カリウム、鉄などに比べ、この2つの物質は自然界の水域において不足しているため、通常では植物の成長は抑制されています。水域にこれらの物質が過剰に添加されると、植物である藻類が最初に著しく増殖します。藻類が増殖すると水が濁るため、沈水植物や水際の浮葉植物などの芽生えに必要な水中葉の光合成が阻害されます。その結果として栄養分が多いにも関わらず、かえって高等植物は育たなくなります。栄養塩類とはその名前が示すとおり、本来は植物の成長になくてはならない重要な物質です。田畑に撒く肥料は不足している必須の栄養塩を補うためのもので、とくに窒素やリンを多く含んでいます。畑に適正に肥料が撒かれているときには植物は適正に育ちますが、どんどんと肥料を撒いていったら、そのうち生育異常を起こしたり、根腐れを起こして枯れたりしてしまいま



す。畑のように人為的管理が難しい湖などの自然の水域では、栄養塩類の流入には十分に注意を払い、過剰な流入が起こらないようにする必要があります。

富栄養化物質を取り除くのはやっかいな問題です。たとえば通常の下水処理ではCODは低くなりますが、栄養塩類はあまり除去できません。下水処理の終わった水は結局川や湖などに放流されますが、窒素やリンが残っているため、すぐに藻類の増殖に結びつきます。藻類が増えることにより有機物が再生産されCODも増大します。水質問題を考えるときには、より直接的にはCODよりも窒素やリンの循環を見る必要があります。とくに湖などの滞留する水域の場合は、窒素、リンの流入と蓄積は、重大な問題となります。(文： 高橋 久)

シンポジウム『河北潟及び干拓地の将来構想』第3分科会の報告

前川 ナナ

2月22日、内灘町役場において、河北潟湖沼研究所が主催するシンポジウムが行われました。総勢約100名の参加があり、3つのグループに分かれて、河北潟に関するさまざまなテーマについて話し合いました。私が参加した第3グループでは、河北潟での地域づくりがテーマでした。干拓地や潟とのつながり、あるべき産業の姿、市民参加の手法の3つの視点から、このテーマについて考えました。

はじめに、潟と周辺住民とのつながりが希薄になっているという指摘がありました。自然と触れ合う機会を増やすために、潟のまわりに遊歩道や環境教育施設を作るという提案がありました。潟周辺の自然とのふれあいを増やすことによって、今、潟がどのような状況にあるのかを知る事が、潟をはじめ周辺の自然を守る一歩になるという考えでした。また、環境教育施設を通して干拓地の農業ともしっかりと触れ合うことによって、市民の心に残り、そのことによって地域への愛着がもっと持てるのではないかと、という意見もありました。子どもたちの遊び場となれる自然豊かな場所が減っている今、このような施設は、教育の面からも、また心理的な面からも、とても有益なものとなるでしょう。

また、潟と県政のつながりについても、問題点が示唆されました。潟には8つの川が流れ込んでいますが、その川の見ためのきれいさを重視するあまり、川の中での生態系を結果的に壊してしまった例もいくつか挙げられました。県政のほうでも、川についての専門家を育て、本当の意味での川を守るという活動をしてほしいものです。

第二に、潟周辺での新しい産業の提案として、大豆、菜種などから油をとってはどうか、というものがありました。また、潟に流れ込

む8つの川の流域をきれいにしないと、周辺産物の評価が下がるという指摘もありました。消費者の方でも地域の産物を買うことによって、ローカルな第一次産業を支えるといった、積極的な意識が必要なようです。

また、これからの酪農のあり方として、家畜の糞をメタンガス源として活用する、民産型エネルギーの提案もありました。メタンガスは、化石燃料に比べて炭素の数が少なく、地球温暖化の原因のひとつである二酸化炭素の排出量の軽減にも効果があります。

最後に、市民参加の手法として、子どもたちが自然とふれあい、さらにガイドをするプログラムの提案がありました。ただふれあい、学ぶだけでなく、ほかの人に教えることによって、学んだことがその場だけのものならず、潟への興味、つながりも深いものになるという考えです。また、周りの大人たちの理解、サポートも欠かせないため、大人への積極的な教育も大切になるでしょう。

また、潟のすぐそばを道路が通っていますが、堤防が高いため、潟の様子がまったく見えないという指摘もありました。道路を走る車から潟の水面が見えるようにし、普段の生活に、自然に潟とのつながりを作っていくのも大切だと思います。



お知らせ

第28回河北潟観察会が開催

第28回目となる「河北潟自然観察会」が2月2日に開催されました。雪の降る寒い日が続いていましたが、観察会当日は天候に恵まれ比較的暖かい一日となりました。今回は野鳥観察をメインに潟湖の南側をみてまわりました。久しぶりの好天で動物たちも活発に動いていたのでしょうか、31種類もの野鳥が確認され、タヌキの交尾がみられるなどたくさんの生きものを観察することができました。また今回の観察会でもクロヅルをみることができました。クロヅルは競馬場西側の河口付近を観察しているときに、偶然にもコハクチョウの群れに混じって上空を通過していきました。青空をゆったりと羽ばたくコハクチョウとクロヅル、いいタイミングでしたがカメラを用意していなかったのが残念でした。



河北潟と干拓地の将来構想募集

河北潟湖沼研究所では、河北潟地域の将来構想をテーマにした論文を募集しています。河北潟は、単に石川県の一部というだけでなく、周辺アジア地域、日本海、朝鮮半島、沿海州の共有財産です。河北潟地域の将来構想は、これらの地域にも貢献できるものと考えられます。新鮮できばつなアイデアを期待

しています。また、これに関連して、河北潟の将来構想につながる研究に対して助成を行うことになりました。これらについての詳細のお問い合わせは、河北潟湖沼研究所本部（076-286-0433）まで。

「河北潟総合研究」第6巻を準備中

現在、河北潟湖沼研究所機関誌「河北潟総合研究」第6巻を制作中です。今回は、干拓地のネズミ類についての新しい知見や、カモ類の分布、西部承水路のカメ類についての論文などが掲載される予定です。作業が遅れご迷惑をおかけしておりますが、今のところ3月中には発刊できるみこみです。もうしばらくお待ち願います。

< 編集後記 >

今回より2月22日におこなわれたシンポジウムの内容を『かほくがた』紙上で紹介していきます。今回はワークショップ3の紹介をおこないましたが、順次他のワークショップの様子もご紹介していく予定です。

今回のシンポジウムには多くの市民の方々に参加いただき、みなさんの河北潟に対しての関心の高さをあらためて認識しました。私たちが今まで気付かなかった水質浄化の新たな視点や、まだまだ解明されなければならない干拓地農業の問題点、またさまざまなアイディアに満ちた市民活動の展望など、活発な意見交換のなかで実り多いシンポジウムとなりました。こうした取り組みが発展して、今後さらに多くの人たちが参加する「豊かで夢のある河北潟地域づくり」が、確実に広まっていくだろうと予感しました。（T）

「かほくがた」 VOL.8 NO.4
2003年3月3日発行
発行所 河北潟湖沼研究所友の会
〒920-0051 金沢市二口町八58
河北潟湖沼研究所金沢事務局内
TEL: 076-261-6951 FAX: 076-265-3435